

システム連携の利用による改善

フローチャートの作成により発見された改善が必要な部分に対して、様々な処方箋（＝対処法）があるかと思います。その中で近年活発に利用されるようになったものの一つに、システム連携があります。基礎データから会社の健康状態（数値）を効率よくタイムリーに把握するために非常に有効なものです。貴社にとって必要なものをご提案し、治療（＝改善）を進めていきます。

①銀行明細の取り込み

現状の主要な会計ソフトでは、インターネットバンキングの取引データを会計ソフトに取り込む機能があります。

単に数字と内容を取り込むだけでなく、AIが取り込み結果を学習していきますので、初期段階で正しく修正していれば、その後は取り込んだ段階で正しい仕訳が生成されることになります。

この機能を使うことにより、作業スピードがアップするとともに、速やかな現状把握が可能となります。

また、取り込んだ結果を照合することで、入出金の内容や過不足のチェックにもつながるため、業務全体の改善につながります。

②経費精算とスキャナ保存

法律上、帳簿は基本的には紙で保存することとなっており、データのみで保存することはハードルが高かったのですが、近年の複数回の改正を重ねた結果、スキャナでの保存は一定の要件のもとに認められることとなっています。スマホのカメラなどの読み込みも可能です。

そのような状況を踏まえて、経費精算に関して、レシートを撮影し、画像データで精算の確認を行う経費精算ソフトの活用が増加しています。

また、従来ですと、各人がレシートとともに精算書を提出し、その結果を踏まえて別途で会計ソフトに入力という流れでしたが、消費税の複数税率など入力が複雑化していく中で、レシートの画像から金額と内容を読み込み、上記①と同様にAIが学習を重ねることで読み込むだけで正しい仕訳が生成される取り組みが進んできました。

上記の一連の流れは次のようになり、従来に比べると経理の負担は大きく減少します。

従来イメージ

各人が精算
書提出



紙ベースで
チェック



内容を見ながら
会計の入力

さらにレシート等の整理及び保存が必要

改善イメージ

各人が経費の
レシートを
撮影等



経費精算ソフト
で精算



精算データを
会計ソフト
に取り込み

レシート等の整理及び保存は上記の流れで自動的になされます。